

事業評価シート

番号 2060090 - 001

【1.基本情報】

事業名	図書館利用推進事業				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※		実施主体	岐阜市
実施期間	昭和33 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	図書館法	

【2.事業概要】

事業の目的	市民が心豊かで文化的な生活を送るため、読書推進を図るとともに学習を支援する	
事業の内容	図書館資料の閲覧や貸出事業、レファレンス事業及び住民の学習支援のための蔵書の充実、読書推進のための各種行事の開催	
事業の 対象	何を	図書館資料や情報
	誰に (対象者・対 象者数)	岐阜市民及び市内在勤、在学者
	どのくらい (具体的 数値で)	図書館蔵書資料の充実
令和2年度 (実施内容)	図書資料の充実を図るとともにボランティアと協働でお話会や本や資料の充実で人ととまちをつなぐ各種イベントを開催するなど、図書館の利用推進を図った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	164,840	5,200	176,800	5,200	169,000	5,200
パートタイム(嘱託職員)	164,697	15,990	166,296	15,990	164,697	15,990
パートタイム(アルバイト)	18,593	4,042	18,593	3,956	17,447	3,877
計(A)	348,130	25,232	361,689	25,146	351,144	25,067

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		168,749	168,749	186,746
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	図書購入費	74,609	74,609	74,456
	雑誌等購入費	12,247	12,247	12,485
	施設管理	64,681	64,681	82,163
	集配・返却等業務委託	17,212	17,212	17,642
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		168,749	168,749	186,746

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	516,879	530,438	537,890

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他	21,518	4,549	8,227
計(F)	21,518	4,549	8,227

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	495,361	525,889	529,663

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	図書館利用者	図書館利用者	図書館利用者
受益者数	688,101	709,532	572,565
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	720	741	925

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	蔵書数	単位	冊
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	800,000	820,000	840,000
実績値	794,079	815,304	827,924

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	貸出数	単位	千冊
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2,500	2,500	2,500
実績値	2,458	2,295	1,776
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	図書館は学習や情報基盤の拠点として、広く市民等に利用される施設である。 市民等の身近な生涯学習施設として不可欠である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	学校連携事業や近隣市町村との相互協力等を実施し、図書館の利用を推進する。 地域ボランティアや協議会等と協働して、各種事業を実施する。また、委託により効率的に業務実施が可能なものは積極的に委託し、円滑に図書館を運営する。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	新型コロナウイルス感染症のため、臨時休館の期間があり、貸出利用者数は前年度を下回っている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	あらゆる世代の利用者に満足していただけるような図書資料の選書と収集に努めている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	地域住民の生涯学習を推進する拠点として、広く住民等に利用される施設を目指して、多様なニーズに応えられるような手厚いサービスを提供する。

事業評価シート

番号 2060090 _ 002

【1.基本情報】

事業名	岐阜市読書サークル協議会補助金				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	岐阜市読書サークル協議会
実施期間	昭和49 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	岐阜市内にある約40の読書サークルを束ねる唯一の団体であり、当該協議会の活動を支援、育成していくことを通して、市域における住民の読書活動及び生涯学習の推進を図る。				
事業の内容	文学講座、研修会等を実施し、地域の読書サークルの活動を推進する協議会に対し育成補助を行う。				
事業の対象	何を	協議会の育成及び活動に対する支援			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市読書サークル協議会			
	どのくらい (具体的 数値で)	協議会が開催する講座や会報発行等の事業に必要な経費の一部			
令和2年度 (実施内容)	当該協議会の事業が円滑に実施できるよう育成補助するとともに多くの市民が参加する文学講座の開催を支援				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	444	14	476	14	455	14
パートタイム(嘱託職員)	0		0		0	
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	444	14	476	14	455	14

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		103	103	103
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	団体補助金	103	103	103
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		103	103	103

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	547	579	558

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	547	579	558

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	協議会加入サークル	協議会加入サークル	協議会加入サークル
受益者数	42	46	46
受益者負担額(千円)	996	971	915
受益者負担率(%)	182.2%	167.7%	164.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	13,019	12,587	12,130

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	講座実施回数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	36	36	36
実績値	36	33	18

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	講座参加者数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2,580	2,580	2,580
実績値	2,556	2,342	699
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	地域に根ざしたサークルの読書普及活動を支援し育成していくことは図書館の役割である。 市民の読書活動の普及や生涯学習の推進は公立図書館が実施すべき施策であり、当該協議会の活動は図書館の施策に沿っている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	当該協議会の活動を支援し、図書館と連携した事業として実施。 当該協議会が主体的に活動を行うことにより、効率的な事業の運営が行われている。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	すでに市内全域に会員を擁しており、広域的な読書活動の普及が期待できる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市内全域に会員を擁し、主催事業への参加者も多く、市立図書館と連携した事業展開が妥当である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	当該協議会の活動は市民の読書活動の推進に貢献が認められ、その活動を支援していくことは妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 _ 003

【1.基本情報】

事業名	コミセン巡回図書館				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じたいきがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	その他	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	地域における図書館サービスの拡大・充実を図るため、コミュニティーセンターにおける図書館サービスを実施する。	
事業の内容	図書室のないコミュニティーセンター(5箇所)への巡回による本の貸出、返却及び予約図書の受け渡し。 巡回時に予約本を受け取れなかった利用者への窓口業務等をコミュニティーセンターの指定管理者への委託。	
事業の対象	何を	市立図書館資料
	誰に (対象者・対象者数)	市民
	どのくらい (具体的 数値で)	図書資料の充実と利用者数の増加
令和2年度 (実施内容)	図書室のないコミュニティーセンター(5箇所)へ木曜日と日曜日の隔週に司書が巡回し、本の貸出、返却、予約図書の引き渡しを行った。巡回時に予約本を受け取れなかった利用者には、コミュニティーセンターの指定管理者に受け渡し業務を委託して、受け渡しを行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0		0		0	
パートタイム(嘱託職員)	5,129	498	4,846	466	4,841	470
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	5,129	498	4,846	466	4,841	470

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		1,889	1,806	1,822
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	委託料	1,789	1,806	1,822
	消耗品	100	0	0
減価償却費【施設管理】※(C)				
計(D)=B+C		1,889	1,806	1,822

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	7,018	6,652	6,663

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	7,018	6,652	6,663

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	利用者	利用者	利用者
受益者数	3,698	4,991	5,178
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,898	1,333	1,287

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	巡回実施数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	249	233	235
実績値	249	233	198

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	貸出数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	6,100	9,200	9,500
実績値	9,101	10,294	10,208
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	図書館の利用が困難な市民に等しく図書館サービスを提供する当該事業は市が実施すべきである。 図書館の利用が困難な高齢者や障がい者、交通弱者などに等しく図書館サービスを提供することは必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	図書館から遠い地域での図書の貸出サービスの向上のためには、地域に密着しているコミュニティーセンターとの連携が必要である。 コミュニティーセンターは指定管理者であり、連携が必要である。ボランティアの活用ができるかは、これからの実績をみてから検討する。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	利用者の更なる増加と資料充実を図る
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	図書館の利用が困難な高齢者や障がい者、交通弱者などに等しく図書館サービスを提供することは必要である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	図書館機能の拠点をし、予約本の受取やブックポストの利用が市民に定着してきており、今後も継続していく。

事業評価シート

番号 2060090 _ 004

【1.基本情報】

事業名	乳幼児読み聞かせ事業				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じたいきがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成15年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	子どもの健やかな成長を願って、乳幼児から絵本を介して日常的に親子のふれあいを深めてもらおうという、子どもの読書活動、子どもの健全育成、地域による子育て支援を積極的に推進し、心豊かな社会を実現する。	
事業の内容	南・中・北の3保健センターの10ヵ月健康診査時に、受診する親子に対して、図書館と市民ボランティアとの連携により、読み聞かせの大切さをPRし、図書館の本を貸し出す。全国に広まるブックスタート事業と同様の趣旨のもとに展開している。	
事業の対象	何を	赤ちゃん絵本と離乳食などの育児支援に関する本の貸出・乳幼児期の読み聞かせの大切さの啓発
	誰に (対象者・対象者数)	乳幼児とその親
	どのくらい (具体的 数値で)	岐阜市内の10ヵ月児全員
令和2年度 (実施内容)	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。通常であれば、各保健センターで10ヵ月健康診査を受診する親子に対して、一か月に2回ずつ行い、その大切さを啓発するとともに赤ちゃん絵本や離乳食などの育児支援関連本の貸出しを、ボランティアと連携して行う。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	2,282	72	2,244	66	0	0
パートタイム(嘱託職員)	742	72	686	66	0	0
パートタイム(アルバイト)	331	72	310	66	0	0
計(A)	3,355	216	3,241	198	0	0

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		741	806	735
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	絵本購入	579	645	645
	ボランティア経費	50	50	50
	消耗品	112	111	40
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		741	806	735

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	4,096	4,047	735

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	4,096	4,047	735

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	乳幼児とその親	乳幼児とその親	乳幼児とその親
受益者数	2,866	2,678	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,429	1,511	

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	絵本といっしょ事業による新規利用登録者	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	300	250	300
実績値	267	183	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	10ヶ月検診受診者数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2,930	3,011	2,777
実績値	2,903	2,903	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	親子のふれあいや子どもの読書活動の推進は、行政として積極的に取り組んでいく施策である。 親子のふれあいと図書館利用の機会づくりであり、地域の密着した市の図書館が実施するのが妥当である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	保健センターと図書館とが連携して、子育て支援や子ども読書活動の推進のための施策として実施することにより、子どもの健全育成と心豊かな社会の実現につながる。 意欲あるボランティアの参画、協力を得て事業を実施する手法は妥当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	乳幼児の頃から、親子がふれあう機会として、絵本の読み聞かせを推進してきた。親子が時間を共有し、コミュニケーションができる手段として有効であり、乳幼児を持つ保護者が興味を持ってきている。図書館へのおはなし会の参加にも効果がある。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	この10ヵ月健診は乳幼児のほとんどが受診していると思われるため、保健センターの協力を得て、PRできている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	絵本をとおして親子のコミュニケーションに活用できることを伝え、図書館を活用して絵本を借りたりおはなし会に参加する意識を広めていく。

事業評価シート

番号 2060090 _ 005

【1.基本情報】

事業名	ビジネス支援事業				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	図書館の持つ情報提供機能を生かし、ビジネスに関する情報を収集、提供するとともに、図書館の利用促進と地域の商工業の活性化、他部署・他機関との連携を図る。	
事業の内容	ビジネス支援セミナーの実施やビジネスチャレンジ支援相談窓口の設置、ビジネス関連情報の提供	
事業の対象	何を	ビジネスに有益な情報および図書などの資料提供と支援機関への橋渡し
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市在住または在勤の市民
	どのくらい (具体的 数値で)	年4回のセミナーと、週2回の相談会、通年のビジネス情報展示
令和2年度 (実施内容)	創業を支援するセミナーと創業・経営相談会の実施、事業運営に役立つ資料の提供と展示による広報	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	254	8	136	4	130	4
パートタイム(嘱託職員)	1,020	99	1,050	101	1,030	100
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	1,273	107	1,186	105	1,160	104

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		141	115	134
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	60	30	60
	消耗品費	74	76	74
	会場使用料	7	9	0
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		141	115	134

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	1,414	1,301	1,294

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	1,414	1,301	1,294

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民	市民	市民
受益者数	335	310	198
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	4,222	4,198	6,535

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	ビジネス支援セミナー及び相談会の回数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	108	107	102
実績値	99	101	68

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	貸出冊数	単位	冊
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2,290,000	2,290,000	2,290,000
実績値	2,457,626	2,295,180	1,775,853
達成状況	○(達成)	○(達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	国・県の施策を地域の実情に合わせて実施するために、市で実施することが適当である。 国・県の施策を地域の実情に合わせて実施するものであり、幅広い利用者を受け入れ、利用者にとっても参加しやすい図書館で実施することが適当である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	県・市の専門的な部署等と連携して実施しており、現状の維持が望ましい。 相談窓口での内容をセミナーに反映させるために、講師には民間人を積極的に起用しており妥当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	コロナウイルス感染防止のため、一時的に相談窓口やセミナーを中止にせざるをえなかったが、セミナー受講者への相談窓口の紹介や関連情報を即時的に提供するなど、ビジネス支援の入り口としての役割を果たすよう努めている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受講や相談を希望する、ほぼすべての人を受入れてきていることから公平である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	今後も、国・県・市の施策が有効に活用されるように専門機関等と連携し、市民に必要な情報を提供する役割が期待される。

事業評価シート

番号 2060090 _ 006

【1.基本情報】

事業名	文学と歴史・物語のまち「岐阜」(旧:文学のまち「岐阜」)				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成18 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	図書館における所蔵資料の活用や各種関係団体との協力関係を構築し、郷土関連文学の掘り起こしを行い、幅広い年齢層に対して情報発信を進め、岐阜ゆかりの文学を伝承する。また、文学に縁のない世代が文学に親しみ未来へと続く文学のまちとなる土壌を作るための活動を行う。	
事業の内容	岐阜関連文学に関する講演会や文学講座、自分史講座等の開催と関連する資料の展示。小学校や団体への読み聞かせボランティアの派遣や文学に親しむ機会となるイベント等を実施。	
事業の対象	何を	岐阜の文学に関する展示や講演会等の開催
	誰に (対象者・対象者数)	市民
	どのくらい (具体的 数値で)	講演会等を年に2, 3回開催する。
令和2年度 (実施内容)	文学に親しむ機会となるイベント図書館文学部などを企画。また、市内各地で行われるお話会に読み聞かせボランティアを派遣。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	317	10	340	10	325	10
パートタイム(嘱託職員)	515	50	520	50	515	50
パートタイム(アルバイト)	230	50	235	50	225	50
計(A)	1,062	110	1,095	110	1,065	110

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		319	320	55
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	120	40	15
	消耗品費	198	198	40
	食糧費	2	0	0
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		319	320	55

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	1,381	1,415	1,120

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	1,381	1,415	1,120

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民一般	市民一般	市民一般
受益者数	1,200	1,349	672
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,151	1,049	1,667

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	イベント実施回数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	5	1
実績値	2	4	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	参加者数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	1,800	1,800	900
実績値	1,200	1,349	672
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進は、市民が気軽に利用できる市の図書館が実施すべき施策である。 岐阜の文学や郷土の作家という市民の財産を図書館は保存、提供、活用していく役割を担っている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	郷土に関する資料を幅広く展示するため、歴史博物館などとも連携し、各種団地とも協力して実施する。 市民に親しみやすいイベントという形で情報提供し、市民ボランティアによる市民共同事業として実施する手法は妥当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	それぞれの年齢層を対象としてイベント等を実施し、幅広い年齢層への読書推進を図ることができる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	広く市民が参加しており妥当である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進のための施策として継続して実施していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 - 007

【1.基本情報】

事業名	みんなの図書館おとなの夜学				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	委託(NPO)	補助の種類※	実施主体	NPO法人ORGAN	
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	岐阜ならではの慣習、生活の知恵、歴史的な経緯、地域文化など岐阜の奥深さを図書館から発信するため、市民協働を視野に入れて、市民目線でわかりやすく伝えるための多角的・多分野な講座や展示を開催する。また、岐阜市立図書館から全国に向けて、岐阜の魅力をアピールする試みとして、WEB動画を用いて講座の様子を情報発信し、過去の講座をブックレットにする。				
事業の内容	岐阜の地域文化に通じた様々な分野の専門家、その道の第一人者による対談やパネルディスカッションを実施する。				
事業の対象	何を	岐阜ならではの慣習、生活の知恵、歴史的な経緯、地域文化など岐阜の奥深さを伝えるための多角的・多分野な講座や展示の開催及びWEB動画を用いて講座の様子を情報発信、およびブックレットの制作			
	誰に (対象者・対象者数)	一般成人・WEB動画視聴者			
	どのくらい (具体的数値で)	一般成人・WEB動画視聴者			
令和2年度 (実施内容)	【講座(おとなの夜学)】 ■土岐氏の居城は、なぜ長良に作られたのか ■岐阜の町屋を守りたい！ ■奈良の大仏の仏師・日野金丸とは誰なのか？ ■ギフチョウが教えてくれる、人類の足あと 【展示】 ■納涼の都 岐阜 ■ギフチョウのひみつ				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	127	4	119	4	98	3
パートタイム(嘱託職員)	41	4	36	4	31	3
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	168	8	155	7	128	6

(2)物にかかるコスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	
直接経費 【直接事業費】 (B)	2,697	2,810	2,248	
直接事業費の主な内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	
項目	委託料	2,200	2,274	1,980
	印刷製本費	497	536	268
減価償却費 【施設管理】※ (C)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)	
計(D)=B+C	2,697	2,810	2,248	

(3)総コスト

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
総事業費(E) =A+D	2,865	2,965	2,376

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他		53	19
計(F)	0	53	19

【5.収支】

	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	2,865	2,912	2,357

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	一般市民等	一般市民等	一般市民等
受益者数	371	364	195
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	7,722	8,001	12,089

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	8	8	8
実績値	8	7	6

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	受講者数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	400	400	400
実績値	364	320	195
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民のシビックプライドの醸成のための役割を担っておりニーズに合っている。 岐阜市ならではの生活・文化等を学ぶ場であり、国・県が主体になるものではなく、まちづくりに詳しいNPOに業務を委託している。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	図書館の人気講座となっており、費用対効果は高い。 NPOとの協働事業として実施している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	毎回、人員を確保できており、市民にとって魅力ある事業と位置付けられる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は一般成人およびWEB動画視聴者であり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	多くの参加者が集まる人気講座として定着しており、市民のシビックプライド醸成に資する役割として今後も継続していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 _ 008

【1.基本情報】

事業名	子ども司書育成				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	子ども同士の関係性の中で読書文化の普及を進めるため、子ども司書としてそれぞれの学校のなかで読書推進の原動力となる子どもを育成するとともに、子どものソーシャルスキルの向上や独創性開発を図る。	
事業の内容	専門家を講師として招き全16回程度の子ども司書育成講座を行う。	
事業の対象	何を	子ども司書養成講座の受講及び認定
	誰に (対象者・対象者数)	小学校高学年から中学生
	どのくらい (具体的 数値で)	小学校高学年から中学生(20名程度)
令和2年度 (実施内容)	コロナ対策として定員を10名、対象を小学4年生から6年生までに絞り募集したところ、62人の応募があった。11月、12月に2回10コマの講座を行い、参加した10名を子ども司書として認定した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	95	3	102	3	49	2
パートタイム(嘱託職員)	72	7	73	7	36	4
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	167	10	175	10	85	5

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		70	70	41
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	70	70	41
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		70	70	41

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	237	245	126

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	237	245	126

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	小中学生	小中学生	小中学生
受益者数	20	20	10
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	11,860	12,240	12,580

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	子ども司書の派遣回数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	1	1	1
実績値	1	1	0

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	受講応募者数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	80	80	80
実績値	61	85	62
達成状況	×(未達成)	○(達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	子どもの読書啓発のためには、友人同士の読書の広がり効果が効果的である。 学校現場での読書推進リーダーの育成を目的としており、市立小中学校を管轄する岐阜市(市立図書館)が事業を行う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	1年間に育成する司書は10人とそれほど多くはないが、その後図書館や学校での活動などにつながり効果が高い。 必要十分な講座を行っており他に効率的な方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	子ども同士の関係性の中で読書文化の普及を進めるため、子ども司書としてそれぞれの学校のなかで読書推進の原動力となる子どもを育成するとともに、子どものソーシャルスキルの向上や独創性開発を図っている。 人気の高い講座であり、例年抽選となっている。修了した子どもたちがすでに活躍しており、魅力ある事業である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は小中学生であり、負担額もゼロであるため適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	子どもの読書推進に資するほか、子どもの社会性を育む事業として、今後も継続していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 _ 009

【1.基本情報】

事業名	子どもラジオ放送				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成28 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	平成27年度より養成している子ども司書に情報発信の場を与え、情報発信の手法やその面白さをラジオ放送のための企画会議や自らが実際の放送を行うことにより、子どもたちに楽しみながら学んでもらい、自発的な意思を育成していく。このような情報発信力を醸成することで子ども司書の活躍の場を学校図書館にも広げていくことを目指す。	
事業の内容	子ども司書が企画会議を経て、番組を作成。自らがパーソナリティとなり、ラジオ収録を行い館内やFMわっちで放送を行う。なお、本事業はぎふメディアコスモスで事業展開している「てにておラジオ」と連携している。	
事業の対象	何を	子ども司書によるラジオ放送を活用した情報発信
	誰に (対象者・対象者数)	子ども司書(小学生高学年から中学生)
	どのくらい (具体的 数値で)	小学生高学年から中学生(40人程度)
令和2年度 (実施内容)	毎月、最終日曜日に子ども司書の企画立案によるラジオ放送をてにておラジオにて実施した。また、FMわっちにおいて、その番組の録音を放送した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	634	20	408	12	325	10
パートタイム(嘱託職員)	206	20	250	24	206	20
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	840	40	658	36	531	30

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		123	123	95
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	委託料	123	123	95
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		123	123	95

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	963	781	626

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	963	781	626

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	小中学生	小中学生	小中学生
受益者数	20	20	20
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	48,150	39,030	31,300

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	ラジオ放送収録回数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	12	12	12
実績値	12	12	9

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	子ども司書養成講座の応募者数		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	80	80	80
実績値	61	85	62
達成状況	×(未達成)	○(達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	子ども司書講座を修了した子どもたちの活動の場であり、国、県が主体になるものではない。 学校現場での読書推進リーダーの育成を目的としているため、市立小中学校を管轄する岐阜市(市立図書館)が事業を行う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	子ども司書講座修了の子どもたちが活動する場であるため、効率的な事業である。 当該事業は子どもたちと市民団体との協働を基本趣旨としている。メディアコスモスにて公開放送を行う市民ラジオ「てにておラジオ」への業務委託を行っている。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	子ども司書に情報発信の場を与え、情報発信の手法やその面白さをラジオ放送のための企画会議や自らが実際の放送を行うことにより、子どもたちに楽しみながら自発的な学びあいを通して、表現力・創造力を育成していく。このような情報発信力を醸成することで子ども司書の活躍の場を学校図書館にも広がることを期待している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	子ども司書は、公募にて募集しており、受益者として適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	子どもの情報発信力を高め、活躍の場を与える事業として、今後も継続していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 _ 010

【1.基本情報】

事業名	作家と語ろうin岐阜(旧 著者に会いたい)事業				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成28年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	市民に作家や作品の魅力を伝え、作品への興味を持ち読書に親しむことの大切さを啓発する。	
事業の内容	普段、作品を通じてしか接することのできない作家を招いて語ってもらうことにより、作家の作品のみならず作家自身の魅力に触れる機会を作る。作家を知り、作品の理解を深め、興味を持つきっかけとなるようなイベントを行う。	
事業の対象	何を	作家の講演会
	誰に (対象者・対象者数)	市民
	どのくらい (具体的 数値で)	年に2回程度
令和2年度 (実施内容)	作家のこだわりや経験など作家自身に関わることや作品に関わることをお話いただく講演会を開催した。同時に関連展示を行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	159	5	170	5	163	5
パートタイム(嘱託職員)	103	10	104	10	103	10
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	262	15	274	15	266	15

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		324	196	201
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	300	150	200
	旅費	23	46	1
	食糧費	1	0	0
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		324	196	201

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	586	470	467

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	586	470	467

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民一般	市民一般	市民一般
受益者数	95	70	73
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	6,163	6,714	6,390

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催回数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	2	2
実績値	1	1	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	参加者数	単位	人
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	100	100	100
実績値	95	70	73
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進は公共図書館が実施すべき施策である。 市民が気軽に利用できる市の図書館が実施すべき施策である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的な連携が可能であれば、連携は必要。 市民の参加が可能な場面では共同で行うことは必要。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	市民の事業への参加が読書活動につながり、読書の普及に期待できる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	多くの市民が参加しており妥当である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進のための施策として継続して実施することが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 _ 011

【1.基本情報】

事業名	図書館発！まちづくり事業					
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館			
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進			政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※		実施主体	岐阜市	
実施期間	平成29 年度～	年度	根拠法令 関連計画※			

【2.事業概要】

事業の目的	本棚のあるまちづくりを推進するため、市民を対象とした講座を行ったり、市民文庫を中心市街地に設置するなどし、本を媒介に人と人がつながる場をつくることを目的とする。					
事業の内容	図書館が商店街の中に本棚を置いて定期的の特集展示を行ったり、お店などに本棚を置きたいと考えている店主を対象に本のある空間づくりをテーマとした講座を行い、本を通じて人と出会い、本を交換しながら人を繋いでいく活動を市民に推進していく。					
事業の対象	何を	専門家を講師として				
	誰に (対象者・対象者数)	一般市民				
	どのくらい (具体的 数値で)	ライブラリアン養成講座 年1回 特集展示年6回				
令和2年度 (実施内容)	今年度の養成講座は中止となったが、市のまちなかパブリックスペース活用事業である「オープンスペースラボ IN 金公園」にて本の展示を行ったほか、柳ヶ瀬・岐阜CINEXにて映画のテーマである貧困問題と公共図書館の役割について関連本の展示を行った。また、屋外用の展示書架等を購入した。					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	95	3	68	2	98	3
パートタイム(嘱託職員)	10	1	73	7	31	3
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	105	4	141	9	128	6

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		175	149	236
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	140	70	
	印刷製本費		43	
	消耗品・備品			236
減価償却費【施設管理】※(C)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
計(D)=B+C		175	149	236

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	280	290	364

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	280	290	364

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	一般市民	一般市民	一般市民
受益者数	6	68	0
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	46,733	4,262	

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	講座開催		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	2	1	1
実績値	2	1	—

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	講座参加者		単位
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	10	50	50
実績値	6	68	—
達成状況	×(未達成)	○(達成)	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本を媒介とした市民のコミュニケーションを目的としており、ニーズに合っていると考えられる。 地域に密着した図書館として、市が担う必要があると考えられる。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	多くの市民が本と出会う場の創出につながるものとして費用対効果は適正である。 本を専門とする市立図書館が主体となって行うべき事業であり他に効率的な方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	人員を確保できており、アンケートに答えた参加者の多くが「満足」としている。市民にとって魅力ある事業である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は一般市民であるため適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	地域に密着した図書館として存在感を高め、地域の活性化に資する事業として、今後も継続していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 _ 012

【1.基本情報】

事業名	本de子育てカフェ				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じたいきがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成29 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	図書館では、子育て世代の利用が増えており、子どもを育てる場として市民に受け入れられつつある。そうした中、手探りで育児に奮闘する親たちに、各家庭における子育てのヒントとなる情報発信を行う。				
事業の内容	乳幼児、児童、中高生など、様々な子どもの親を対象に、子育て等の専門家による「本と子育て」をテーマとした講座を行う。				
事業の対象	何を	専門家による講演会等			
	誰に (対象者・対象者数)	市民一般			
	どのくらい (具体的 数値で)	年に3回			
令和2年度 (実施内容)	作家や本に関連する専門家がワークショップや読み聞かせ等、子どもを対象のイベントを年3回行う。同時に関連展示を行った。				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成30年度決算額		令和元年度決算額		令和2年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	95	3	136	4	65	2
パートタイム(嘱託職員)	93	9	114	11	72	7
パートタイム(アルバイト)	0		0		0	
計(A)	188	12	250	15	137	9

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
		231	231	201
直接事業費の主な内訳		平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
項目	報償費	230	230	200
	食糧費	1	1	1
減価償却費【施設管理】※(C)				
計(D)=B+C		231	231	201

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	419	481	338

【4.収入】

収入内訳	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)	令和2年度決算額(千円)
	419	481	338

【6.コストバランス】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業受益者	市民一般	市民一般	市民一般
受益者数	184	216	58
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	2,276	2,229	5,829

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催回数	単位	回
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	3	3	2
実績値	3	3	2

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	アンケート結果のうち、「参考になった」と回答された割合	単位	%
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
目標値	70	70	70
実績値	91	91	63
達成状況	○(達成)	○(達成)	×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進は公立図書館が実施すべき施策である。 市民が気軽に利用できる市の図書館が実施すべき施策である
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的な連携が可能であれば連携は必要である。 また、市民の参加が可能な場面では協働で行うことは必要である。 専門家への講師を依頼している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	それぞれの世代の子育て層を対象とした講演を実施し、子育ての参考となるよう支援している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	それぞれの世代の子育て層を対象とした講演を実施しており、広く市民が参加している。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	子育ての支援として、今後も継続していく。